

地元若者で地域活性化を目指して

岩手県一関市 F.E.S.T (藤沢町住民自治協議会)

市民によるまちづくりを進めるために、平成26年藤沢町住民自治協議会が設立されました。当団体は、一関市藤沢町全域にある43の自治会（地縁団体）と19の団体（志縁団体。現在は18団体）で組織されています。

一関市藤沢町は、岩手県の最南端に位置し、西側に北上川、南側には宮城県登米市があります。人口は令和4年3月末日で7300人、5歳区切りの人口で、0歳児から4歳児までが133人、90歳から94歳までの人口が275人という、まさに少子高齢化が顕著な地域です。

こうした状況下にある当該地域での共通の現象として、高校卒業後の若者は、都会に転出していき、自然減に加え、社会減がさらなる人口減少を加速化させていますし、まちづくり

の中心の担い手は高齢者となっており、想像力に富んだ、魅力ある地域づくり、地域の活性化策などが困難な状況となっています。

こうしたことから、平成28年度、次代を担う若者たちによるまちづくりを模索してこのうと、町内自治会に呼びかけ、まちづくりに参画する若者を推薦してもらい、活力ある若者会議を開催しました。43ある自治会から選ばれ集まった若者は、たったの10名ですが、設立から5年の間に、実にユニークな活動を展開しておりますので、その一端を紹介させていただきます。

名前の由来ですが、第1回会議の際に、藤沢のF、楽しむEnjoy、形のStyle、チームのTeamの頭文字をとってF.E.S.Tと名付け

られました。現在のF.E.S.Tメンバーは、農業、商業、福祉施設経営者など、多岐にわたる職業の若者が参画しています。ただし、このF.E.S.Tには代表者はいません。今時の若者の特徴なのでしょうか。代表にはなりたくないが、まちづくりはやるよというメンバーで事業を展開しています。

1. 我が町が誇る夏の一大イベント「野焼祭」をもっと楽しもう

毎年8月第2土曜、日曜に開催されている藤沢野焼祭。縄文時代に思いを寄せ、縄文土器を焼きながら祭りを楽しむというものです。今は亡き岡本太郎氏や池田満寿夫氏などが愛した「藤沢野焼祭」。祭りの会場になる運動広場に十数基の土器窯が設置され、夕方から一斉に窯の中に点火され、会場全体は、真夏の夜を焦がすように土器が焼成されていきます。この祭りをもっと盛り上げたいと、屋間のイベントを企画。子どもたちにボルダリングを楽しんでもらおうと、特設ボルダリング体験イベントを実施しています。

昨年、コロナ禍における野焼祭が、3年ぶりに開催されましたが、令和元年度の祭りの際には、高校生を対象とした「熱陶 甲子園」に対抗して、自分たちで野焼土器を作製し、出来上がった土器の容器でラーメンを食べよ

うと「土器土器、沸く沸く 熱湯 幸楽園事業」を実施したのですが、不幸にも焼成に失敗、土器は木っ端微塵になり実験は失敗に終わってしまいました。

2. ふるさとの資源を見直し、特産品の開発

令和2年度は、自分たちが住んでいるふるさとの地域資源を見つめ直そうと、「ふるさと水の恵み事業」を実施しました。藤沢町には、国営、県営の農業用貯水ダムが3基あります。そういう事実を知らない市民に、ダム



DAM-DATA	
所在地	岩手県一関市藤沢町(旧藤沢町)
河川名	北上川水系奥州川
型式	ロックフィルダム
ゲート	ジェットフローゲート×2門
総長(堤防)	430m・339m
総貯水容量	116万m ³
事業者	岩手県
管理者	一関市(国土改良区へ管理委託)
工期	1981年・2005年
工期	1981年・2005年

ひとくちメモ
ほろわ湯の由来(金越沢ダム)
正式なダム名はこのダム地域一帯の通称である「金越湯(かなこえど)」から金越沢ダムと命名されました。
また、保良町(ほむら)地区にあるダムであることから、愛称を「ほろわ湯」と呼んでいます。

ダムカード



ダムカレー



ボルダリング体験イベント



の町をPRしよう。市内外に周知しよう。と、ダムカードを作成、また、特産品としてのダムカレーを企画しました。当初は、ダムカレーを自分たちで販売しようとしたのですが、想像以上に時間がかかること等から、むしろ町内の飲食店に企画提案し、販売してもらうことに変更しました。

ダムカードに関しては、遠くは岡山をはじめ、愛知、東京から、仙台、盛岡など、大勢の皆さんがカードを受け取りにやってきます。

ダムカレーに関しては、町内2店舗の協力をいただき販売を開始、話題が話題を呼び、

テレビでも取り上げられ、特産品の一つになったと自負しています。

3. 冬のイルミネーションでまちあかり

岩手県の最南端に位置するとはいえ、我が町も北国で気持ちまでが、寒く沈んでしまうような冬を迎えます。そうした冬でも、気持ちを温かくしようと、12月初旬から「ふじさわまちあかり」事業を展開しています。

落葉した十数本の桜の木にイルミネーション



ふじさわまちあかり

ンを飾り付け。国道沿線に灯りをともします。その事業初日には、点灯式を実施。参加した児童とイベントを盛り上げます。

これら事業を展開する上で共通となっているのは、FESTのみならず、町内の関係機関、団体と連携して事業を盛り上げている点です。先に記述したダムカード、ダムカレーについては、町内飲食店はもとより、ダムを直接管理している藤沢土地改良区の協力ももらいながら事業展開していますし、まちあかり事業については商工会議所青年部との連携



ふじさわ盆 DAN フェス

の中で実施しています。令和4年度は、女性団体や市民グループとの連携で、新たに「ふじさわ盆DANフェス」を開催しました。FESTが中心となり、若者によるまちづくりは、今、多くの市民が期待を寄せています。令和5年度は、昨年度までの実績に加え、楽しむことを基本に、新たな事業にチャレンジしていくと画策しています。

(FEST 藤沢町住民自治協議会

事務局長 倉部成彦)



「きっくバイク事業」への協力